

研究機関名：東北大学

受付番号： 2016-1-240
研究課題名 色彩象徴テストを用いた子供の病院環境に対するイメージ形成調査
実施責任者（所属部局・分野等・職名・氏名）： 医学系研究科・小児看護学分野・教授・塩飽 仁
研究期間 西暦 2016年 7月（倫理委員会承認後）～ 2017年 3月
対象材料 <input type="checkbox"/> 過去に採取され保存されている人体から取得した試料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名： ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名： ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ） ■研究に用いる情報 <input type="checkbox"/> カルテ情報 ■アンケート <input type="checkbox"/> その他（ ） 対象材料の採取期間：西暦 2016年 7月～西暦 2016年 11月 対象材料の詳細情報・数量等： （対象疾患名や数量等の詳細を記すこと。多施設共同研究の場合は、全体数及び本学での数量等を記すこと。） 弘前大学教育学部附属小学校の学童約 280 人と東北大学の学生約 100 人に調査を行う。
研究の目的、意義 病院は子供たちにとって慣れない環境であり、かつ信襲のある検査や処置などにより、不安や恐怖心を与えやすい場所である。そのような不安や恐怖心は、子供が病院をネガティブなイメージとして捉えるきっかけとなり、病院における円滑な治療を妨げることが考えられる。一方で、小児病棟では成人病棟に比べ、子供が抱く病院への不安や恐怖を軽減するためにあらゆる装飾による環境づくりが行われていることが多い。だがしかし、病院のイメージ形成は視覚環境だけで行われるのではなく、さまざまな状況や環境などが相互して作られるものだと考えられる。さらに、小児期に形成されるイメージは、成人期に形成されるイメージに比べ、より強く印象づけられ、その子供にとっての今後の病院という存在の意義や治療への意欲など、さまざまなものに影響を与えやすい。また、イメージというものは心の中で感じていても、その漠然としたものをうまく言語で表出して伝えることは困難であると考えられる。 これらのことを踏まえて、子供にとってのよりよい病院環境を視覚に訴えるもののみではなく、五感に影響するあらゆるものに焦点を当てて環境づくりを行っていけるよう検討するために、病院におけるさまざまな状況や環境をどのように捉えているのか、言語で表出しきれない真の感情を把握することは非常に重要であると考えた。 これまでに、小学生が病院に抱く印象（河合ら,1997）や小児病棟における壁面装飾の印象と効果（鈴木ら,2008）など、イメージを提示して直接表現してイメージを調査した研究や視覚環境に注目した印象に関する研究はみられるが、色彩象徴テストのように、なかなか表には現そうとしない心の世界を探り、言語では表出しきれない感情やイメージを調査する研究（引用:松岡,1964）や、病院におけるあらゆる状況や環境別のイメージ調査をした研究はみられない。 以上から、本研究は子供と成人があらゆる環境因子から形成する病院におけるイメージを把握することと、子供と成人における病院でのイメージの形成の相違点を知ることが目的とする。 この結果から、幼少期から成人期にかけて形成される病院環境のネガティブイメージを明

らかにすることで、よりストレスの少ない病院環境の改善を検討することができると考えられる。

実施方法

小学生および大学生を対象とし無記名のアンケートおよび色彩象徴テストを行い、小学生と大学生の比較検討をする。大学生への調査は東北大学川内北キャンパス全学教育を受講する学生を対象に実施する。授業開始前の業間時間に、文書及び口頭にて調査の概要や同意確認の方法（回答した質問紙の提出を以て研究への参加の同意とみなすこと）を説明する。調査説明後、質問紙を配布する。記入後は回収箱に提出してもらう。質問紙への回答に要する時間は約 10 分であり、1 人 1 回限りとする。

この調査に協力するかどうかは、対象者本人の自由意思によって決めることができる。調査に協力しないことで、成績に影響するなど不利益が生じることはない。なお、この調査は無記名調査のため回答者を特定することはできないことから、回答後に対象者本人または代諾者から拒否の申出があっても対応できない。

研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手・閲覧方法

本研究の研究計画書および研究方法に関する資料を入手・閲覧したい場合は、「本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口」にご連絡ください。

個人情報の利用目的の通知に関する問い合わせ先

保有個人情報の利用目的の通知に関するお問い合わせ先：「本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口」

※注意事項

以下に該当する場合にはお応えできないことがあります。

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 第 6 章第 16 の 1(3)>

①利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、研究対象者等又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合

②利用目的を容易に知り得る状態に置くこと又は請求者に対して通知することにより、当該研究機関の権利又は正当な利益を害するおそれがある場合

個人情報の開示等に関する手続

無記名調査のため、回答した質問紙の提出後は質問紙から個人を特定することはできません。そのため、個人情報を開示することはできません。

本研究に関する問い合わせ・苦情等の窓口

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2 - 1

東北大学大学院医学系研究科保健学専攻小児看護学分野

E-mail : inquiry@chn.med.tohoku.ac.jp TEL/FAX : 022-717-7921 (研究室直通)

研究責任者：塩飽仁（しわくひとし）